

■フィリピン大気地球物理天文局、地震火山研および先端科学研とMoU調印

NICT総合テストベッド研究開発推進センターは、2018年12月14日に情報通信研究機構（NICT）、フィリピン大気地球物理天文局（PAGASA）、フィリピン地震火山研究所（PHIVOLCS）およびフィリピン先端科学研究所（ASTI）とのMoUを調印した。DOST（フィリピン科学技術省）事務次官 Guevara 氏立ち合いのもと、NICTから細川理事、PHIVOLCS 事務次官 Solidum 氏、PAGASA 事務次官 Malano 氏、ASTI 所長代理 Marciano 氏により、調印式を PAGASA において執り行った。

このMoUは、減災および耐災害社会の実現のための情報通信技術について4者間での協力を進めるものである。フィリピンは台風、地震、火山、津波、地滑り、洪水など様々な自然災害の被害を受けており、情報通信技術を活用することでこれらの解決への技術開発が期待されている。

本MoUに基づく最初の取り組みとして、NICTのPavarangkoon 研究員が中心となり「ひまわりリアルタイム Web」のフィリピンミラーサイト運用を開始した¹⁾。フィリピンは毎年台風被害が発生しており、ひまわりデータの利活用が期待されてきた²⁾。ミラーサイトへはNICT ひまわりデータベースからJGNなどの国際回線³⁾を介して10分おきに370MBのデータを転送できるようになり、フィリピン国内のインターネット環境からの利便性が向上した⁴⁾。

調印式ではプレスからの質疑が多く寄せられ、現地の関心の高さが伺えた⁵⁾。本件は在フィリピン日本大使館本田書記官へ情報提供し、フィリピン国内関係者にも周知していただく旨の発言があった。

今後は、スマートフォン用のアプリケーションを公開するなどフィリピン国内での利用を推進する。また、これ以外にもNICTの有するIoT技術やデータ通信技術等と国際ネットワーク（JGN）を活用した防災・減災に関する取り組みの連携にもつなげて行く。



(a) DOST（フィリピン科学技術省）事務次官 Guevara 氏、(b)MoU 調印（向かって左から細川理事、PHIVOLCS 事務次官 Solidum 氏、PAGASA 事務次官 Malano 氏、ASTI 所長代理 Marciano 氏）、(c)質疑応答